

# 大江戸の散歩の会

## 観梅&歴史散歩

### 「隅田公園～東京スカイツリー～亀戸天神界隈」

散歩中の連絡先⇒09085831528

#### ＜散歩道のご案内＞

観梅といえば江戸時代は「亀戸天神」が有名でした。安藤広重が描いた浮世絵、亀戸梅屋敷の「臥龍梅」の遠近法はゴッホを始め多くの西洋画家に多大な影響を与え、世界中から高い評価を得てきました。7年後の東京オリンピックでは、こうした東京の「江戸文化」が大きな話題になること間違しです。

今日は、今や日本を代表する観光スポットのスカイツリーの威容を存分に楽しみながら、江戸の梅の名所で知られた鬼平ゆかりの「亀戸天神」や太田道灌ゆかりの古刹など室町時代からの古い歴史の足跡が刻まれている散歩道を逍遥しつつ、船橋屋の「葛餅」や「亀戸餃子」などの「味散歩」も合わせて堪能しましょう。

#### ＜散歩道の順路＞

浅草花川戸交番前→吾妻橋→勝海舟像→枕橋→隅田公園T（藤田東湖の碑・牛島神社・堀辰夫旧居跡）～源森橋→東京スカイツリーT→春慶寺（鶴屋南北縁）→普賢大菩薩→本法寺（狩野元信縁）→法恩寺（太田道灌縁）→江戸切子会館→オリナスT（小休息）→千種稲荷神社→亀戸銭座跡→船橋屋（葛餅）→【ランチタイム】→亀戸天神T（観梅）→龍眼寺（菘寺）→天祖神社→光明寺（歌川豊国縁）→普門院（伊藤左千夫縁）→梅屋敷跡（臥龍梅縁）→香取神社（亀戸大根縁）→東覚寺（弁財天）→常光寺→割烹升本→但元いり豆本店→亀戸駅（解散）

#### ＜個別ガイド＞

##### ① 隅田公園

春には屈指の桜の名所となり、夏には隅田川花火大会が行われます。公園内の庭園は水戸徳川邸内の池等、遺構を利用して造られています。関東大震災後で屋敷が全壊するまで代々ここに住んでいたと伝えられますが、その後隅田公園の区域に取り込まれ、日本庭園へ姿を変えました。

##### ◆「正気歌」碑◆

「天地正大の気粹然として神州に鍾（あつま）る。秀（ぬきん）では富士の嶽となり、巍々として千秋に聳（そび）ゆ。」幕末、この地の水戸藩主下屋敷に幽閉された尊王思想家藤田東湖が同士の士気高揚のために作ったのが「正気の歌」。明治維新を前に志士の間で愛唱されました。

#### ◆牛島神社◆

貞観年間(859～879)頃、慈覚大師が一草庵で素盞之雄命の権現である老翁に会い、牛御前と呼ぶようになったと伝えられ、かつては隅田公園に北側にあったのが公園の工事のため昭和7年に現在の場所に移りました。本所の総鎮守として知られ、9月15日には例大祭が催されています。境内の「撫牛」は自分の悪い部分と牛の同じ部分を撫でると病が治るといふ信仰で、肉体だけでなく心も治るといふ心身回癒の祈願物として有名。他にも本殿前には全国的に珍しい三輪鳥居(三つ鳥居)と「狛牛」があります。→東京スカイツリー

#### ② 春慶寺(鶴屋南北縁)

春慶寺は、元和元年(1615年)浅草森田町の地に、真如院日理上人によって創建されました。その後、寛文7年(1667年)に浅草から本所押上村に移転、現在まで約四百年の歴史を持つ由緒あるお寺です。江戸時代から「押上の普賢さま」と称され、特に辰年、巳年守り本尊として多くの参詣人で賑わっています。当時の隆盛ぶりは、「東都歳時記」や「武江年表」等で再三紹介されています。また、天明(1781～89年)の頃に活躍した浮世絵師勝川春潮の「押上村行楽」といふ浮世絵には、石の道標に「押上村」「普賢菩薩」といふ文字が見られ、押上村の春慶寺に“お参りに行く”ことが人々の大きな楽しみであったことがうかがえます。現在、境内には「鶴屋南北の墓」や「関東俳優之碑」が残っています。

#### ③ 本法寺(狩野元信縁)

文禄4年(1595年)、日慶が神田に創建したのに始まる。慶安2年(1649年)に谷中に移転し、その後、元禄2年(1689年)に現在地に移転した。墓地には狩野元信の墓があることで知られる。狩野元信は室町時代の画家で京都に生まれ、室町幕府の御用絵師となり、後に出家して永仙と号した。狩野派の大成者であり、京都大徳寺大仙院客殿の襖絵「花鳥図」や妙心寺霊雲院旧方丈の襖絵「山水花鳥図」などが代表作。

#### ④ 靈山寺

家康の命を受けて、1601年(慶長6年)大超上人の開山により、神田駿河台に創建された寺です。寛永十二年(1635)湯島に移転。明暦三年(1657)の明暦の大火で類焼し、浅草松葉町へ移転、1689年(元禄2年)に亀戸村(現在地)に移転してきた。

崇源院(江姫)は、若い時代から深い浄土宗の帰依者で、寺社への寄進行為を繰り返していたそうです。江と靈山寺の関わりですが、江は慶長11年、当時湯島恋坂にあった靈山寺に寺領50石を寄進しました。江の侍女民部卿の取次をもって「宝祚延長・国家安全・武運栄昌」の祈祷を行うようにこの寄進がなされたと記しているそうです。

#### ⑤ 法恩寺(太田道灌縁)

開基は太田道灌公。道灌公が江戸城築城に当たり丑寅の方に城内鎮護の祈願所として本住院を建立、資高の代、本住院を法恩寺と改称した。山号を平河山と称するのは、当時この附近を平川村と称したことによるものです。又、当山には秀吉、家康共に小憩され、朱印地も与えられました。

家康が江戸に入り城内拡大に当たり、慶長十年当山は神田柳原に移転し、その後谷中清

水町に移され再度元禄八年に幕府により現在の地に移りました。境内は輪奥の美を整え宗門における関東の触れ頭として現在でもその威勢を誇っております。→江戸切子会館→オノナスT(ラン千)

#### ⑥ 千種稲荷神社T

徳川四代将軍家綱の時代(寛文～延宝)に治水工事が行われその後、柳島村の守護神として祭られたと伝えられています。明治時代になっても、この稲荷神社は保護されて郷土の守護神として残されました。その後、陸軍糧秣廠(りょうまつしょう)(陸軍の兵隊の食料や軍馬のまぐさをたくわえた役所)本所倉庫をこの地に建設したとき、敷地内にあった稲荷神社を取り払ったところ再三火災が発生。そこで旧位置に稲荷社を再建して祀ったところ不思議にもその後火災はまったく起こらなかったといえます

#### ⑦ 亀戸銭座跡

寛文8年(1668)呉服屋を営んでいた後藤縫殿助が中心となってこの亀戸の地で、大規模な銅銭鑄造が開始された。ここで鑄造された寛永通宝には「文」という文字が入っていて、「背文銭」と呼ばれたという。銭座は金座や銀座に比べると全国に多数存在したらしく、この隅田川付近でも、たとえば南千住あたりに存在したらしい。→船橋屋(くずもち)

#### ⑧ 亀戸天神T(観梅)

正保三年(1646)九州太宰府天満宮の神官だった菅原大鳥居信祐公(道真公の末裔・亀戸天神社初代別当)は神のお告げにより、公ゆかりの飛び梅の枝で天神像を刻み、天神信仰を広めるため社殿建立の志をもって、遠くは日光または盛岡などの諸国を巡り歩かれ、そして江戸の本所亀戸村にたどり着かれ、村に元々ありました天神の小さなほころにご神像をお祀りいたしました。

四代将軍徳川家綱公は江戸の町を焼き尽くした明暦の大火の鎮守の神様としてお祀りするように現在の社地を寄進されました。そして、寛文二年(1662)10月25日に太宰府の社にならい、社殿、回廊、心字池、太鼓橋などを営み、以来約350年後の今日まで東国天満宮の宗社として崇敬されてまいりました。

#### ⑨ 龍眼寺(萩寺)

天台宗 慈雲山 無量院 龍眼寺 (萩寺)。龍眼寺創建は応永2年(1395年)、良博大和尚が観世音の夢告とおり、柳島辻堂の下に眠る観世音をまつり、村に流行していた疾病を平癒し、慈雲山無量院柳源寺と号しました。その後、寺の湧き水で洗顔すると目がよくなると眼病平癒の観世音として信仰を集め、龍眼寺と改名しました。

江戸初期には、住職が百種類もの萩を諸国から集めて境内に植えたことから、通称“萩寺”として多くの文人墨客が訪れ、「江戸名所図会」には萩を愛でる人々で賑わう様子が描かれています。境内に咲く四季折々の花々は、訪れる人の心を和ませ、松尾芭蕉、落合直文など文人墨客の句碑が昔の風情を偲ばせます。

#### ⑩ 天祖神社

創立年代は明らかでないが、推古天皇の時代に建てられ、聖徳太子作の御神像の神体が

まつられていたと云われています。また、天正年間（1573～）悪病が大流行したとき、織田信長がこの神社で流鏝馬の行事を行かせたところ、たちまち収まったので、以来病気を治す神社として有名になりました。現在でも毎年9月16日の祭事として、子どもによる歩射（びしゃ）が行われています。境内には亀戸七福神：福祿寿も祀られている。

#### ⑪ 光明寺(歌川豊国縁)

光明寺は天台宗で、亀命山遍照院と号し創建は弘治元年（1555）と伝えられています。境内には、寛永5年（1628）という区内でも古い年号をもつ法篋印塔、延宝4年（1676）の庚申塔、越後国（新潟県）新発田藩主溝口宣広奉納の寛永寺旧蔵石造燈籠、役者絵・美人画に独特の境地を開き、浮世絵の第一人者と賞された二世歌川豊国（国貞1786～1864）の墓などがあります。

#### ⑫ 番門院(伊藤左千夫縁)

開創は大永2年（1522）、長賢上人を招いて石浜城内に開かれたと伝えられる。石浜城は武蔵千葉氏の居城で、現在の石浜神社（荒川区）のあたりにあったとも、待乳山（台東区）にあったとも伝えられる。元和2年（1616）亀戸村の現在地に移転。この時、過って梵鐘を隅田川に沈めてしまった。これが鐘ヶ淵（墨田区）の地名の由来と伝えられる。慶安2年（1649）には朱印地5石を寄せられている。江東区に在住した伊藤左千夫の墓がある。

#### ⑬ 梅屋敷跡(臥龍梅縁)

水戸光圀が命名したと云われる「臥龍梅」が有名な梅の名所跡。もとは本所埋堀（現在の墨田区）の商人、伊勢屋彦右衛門の別荘で、庭内に多くの梅が植えられていたことから梅屋敷と呼ばれるようになった。また、八代将軍吉宗も鷹狩の帰りにこの地を訪ねたとのこと。江戸近郊の行楽地として賑わい、その様子は歌川広重の「絵本江戸土産」にも取り上げられたほど。明治43(1910)年の水害で全ての梅は枯れてしまい、現在は石標柱が当時を偲ばせるのみである。

#### ⑭ 香取神社T(亀戸大根縁)

旧・亀有村の鎮守。旧別当は香取山恵明寺。往古、亀有は下総国葛西御厨亀無村といい、香取神宮の神領であったことから、建治2年（1276）その御分霊を勧請して、村の鎮守としたという。その後、鹿島神宮（武甕槌大神）と息栖神社（岐大神）の御分霊を合祀し、東国三社の神を祀る社として現在に至る。

なお、亀有の地名については、江戸時代、亀無の「無」の字を嫌い、「有」の字に改めたのであろうという。地名に因み、旧社殿の屋根には一対の亀形瓦が置かれていた。現在は葛飾区の登録有形文化財に指定されている。平成21年（2009）には、亀形瓦を模した狛亀が大鳥居脇に建立された。現在の社殿は昭和42年（1967）に改築されたもの。その際、旧本殿は境内の亀有招魂社に、旧拝殿は改造して神楽殿とされている。→但元い豆本店→割烹升本→亀戸梅屋敷→亀戸駅(解散)